

やっぱり！なるほど！ESD！

四国ESDフォーラム2025

～ジオパークで拓く四国の未来～

ESD(Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育)は、SDGs達成において重要な役割を果たします。※「SDGs」は、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月に国連のサミットにおいて決められた、国際社会共通の目標です。

今回はジオパークをテーマに開催。

地球の遺産を保護保全しながら、研究・教育、観光を通じて持続可能な開発を実践してきたジオパークにおいても、ESD(持続可能な開発のための教育)は重要なキーワードの一つです。学校教育や社会教育のさまざまなテーマともつながるジオパーク、今回はそんなジオパークにおける教育活動について紹介し、その成果について議論することで四国の持続可能性を学び、考えます。

2025

11/3 月・祝

13:00～16:00

室戸市役所 第1・2会議室

(高知県室戸市浮津 25 番地 1)

参加
無料

定員：会場 80名(先着順)

※オンライン配信あり(100名・先着順)

対象：ESD実践者、研究者、地域ESD拠点関係者、教員、学生、一般、ジオパーク関係者

10:00
～12:00

現地見学のご案内【参加者募集】
室戸岬体感ガイド「感じる室戸！」コース

室戸って…どんな音？どんな色？？
どんなにおい？？？どんな触り心地？？？
ぜひ、あなたの五感をフル活用して『室戸』を体感してください。

場所 室戸世界ジオパークセンター・室戸岬

内容 ガイドつきの見学

※室戸市役所発着のマイクロバスで移動します。

※詳細は裏面をご覧ください。

※見学の申込締切 10月17日(金)



四国のユネスコによる発表

四国各県の高校生が探究学習などで学んだことを発表します。ジオとのつながりにも注目！

徳島県立池田高等学校 香川県立高松西高等学校

愛媛県立野村高等学校 高知県立室戸高等学校

パネルディスカッション

ジオパークで学ぶ

ジオパークは「地球の記憶」をもつ地質遺産を守り、持続可能な開発を実践するユネスコのプログラムです。四国には室戸(ユネスコ認定)、四国西予、土佐清水、三好(日本認定)、讃岐(構想地域・準備中)があります。今回は室戸ユネスコ世界ジオパークにおける教育活動とその成果について学びます。

■問合せ・申込み

参加ご希望の方は、以下申込フォームよりお申込みください。

<https://forms.office.com/r/eZCvN0DvNX>

※申し込み後、返信メールが届かなかった場合は恐れ入りますがメールでお問合せください。

◆四国地方ESD活動支援センター(四国ESDセンター)

TEL:087-823-7181 FAX:087-823-5675 メール:info@shikoku-esdcenter.jp



申込締切
10月31日(金)
12:00まで

共催 ● 四国地方ESD活動支援センター(四国ESDセンター)、中国四国地方環境事務所四国事務所、室戸ジオパーク推進協議会、室戸市
協力 ● 四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)、一般社団法人りぐる
後援 ● 高知県教育委員会、徳島県教育委員会、香川県教育委員会、愛媛県教育委員会、国立大学法人高知大学、
NPO 法人日本ジオパークネットワーク、ESD 活動支援センター、NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)



この取り組みはローカルSDGs 四国の分科会である四国ESDチームも協力しています。

13:00

開会・主催者挨拶 常井 玄(室戸ジオパーク推進協議会事務局長)
福井 智之(中国四国地方環境事務所四国事務所長)

13:05

四国のユース ESD/SDGs 事例発表 進行:竹下 浩子(愛媛大学教育学部准教授)

徳島県立池田高等学校(録画発表)

三好を舞台に、未来をつくる ～動画でつなぐ地域と観光～

私たち池田高校探究科観光班は、大阪公立大学松本ゼミの方々にご協力いただき、三好市の魅力について探究しています。私たち高校生が当たり前だと思っている日常は、他県の方々からすれば、素晴らしい「非日常」だと教えていただきました。三好市にはジオパークにも認定された雄大な自然がありますが、魅力はそれにとどまらず、地元で育った私たちさえ(だからこそ)、知られていない魅力があることを、私たち自身が日々発見しています。三好市、そしてその魅力をどうすれば知ってもらえるか、リピーターが増えるのか、SNSを活用した広報や、旅行プランの設計に向けて、模索を続けています。今回の動画は、三好市でのフィールドワークを通して感じた、三好の魅力を、私たちなりにぎゅっと詰めてみました。

愛媛県立野村高等学校

ジオの恵みとともに生きる ～西日本豪雨災害から始まった探究活動～

西予市野村町には4億年以上前の岩石を含む黒瀬川構造体があり、標高1,000mを超える四国カルストでは酪農が行われるなど、自然の恩恵を受けて養豚や養蚕、酒造などの多様な産業が行われています。その一方で、2018年の西日本豪雨では肱川の氾濫により、野村町一帯が甚大な被害を受け、5名の尊い命が失われました。野村高校の総合的な探究の時間における「菜園共創プロジェクト」は、西日本豪雨からの復興を目指し、防災教育の一環として地域住民、行政、教育機関と協働して行ってきた活動です。

香川県立高松西高等学校

なぜ鬼無は盆栽の町になったのか？

本校は、盆栽の産地として知られる香川県高松市鬼無町にあります。鬼無地区外からの通学者も多いことから、学校周辺地域の特徴を理解するために、1年生全員を対象としたフィールドワーク「ブラ☆きなし」を毎年4月頃に実施しています。その「ブラ☆きなし」に参加した本校1年生3名が、その活動内容や活動を通じて学んだこと等について発表します。

高知県立室戸高校学校 ジオパーク学お遍路探究班

外国人お遍路さんに室戸に滞在してもらおう！ ～オリジナルガイドブックでインバウンドアップ～

私たちは、「ジオパーク学」という授業で外国人お遍路さんに室戸に長く滞在してもらうための研究を進めています。アンケートや現地調査を通じて、必要な情報や課題を調べたところ、英語看板や休憩所の不足などが明らかになりました。これからは室戸のトリビアや宿泊情報をまとめたガイドブックを作成し、SNSなどで発信することで室戸の魅力を世界に伝え、地域活性化につなげたいと考えています。今回の発表では2年間計画のこの研究について途中経過を紹介します。

14:20

休憩

14:30

パネルディスカッション「ジオパークで学ぶ」

今回はグローバルに展開する室戸ユネスコ世界ジオパークの教育活動について、高校生、大学生、ジオガイド、専門員の皆さんと議論します。

コーディネーター: 新名 阿津子(高知大学人文社会科学部准教授)

パネリスト: 佐々木 智菜・野村 憂音(室戸高校ジオパーク同好会)

野老山 薫(高知大学人文社会科学部4年)

堺 喜久美(室戸市観光ガイドの会)

柿崎 喜宏(室戸ジオパーク推進協議会)

15:45

総括・講評 竹下 浩子(愛媛大学教育学部准教授/四国 ESD センター長)

閉会挨拶 竹内 よし子(四国 ESD センター統括)

16:00

閉会・交流タイム ※閉会后、会場で自由に交流できます(16:30 閉場)

展示のご案内

「四国の地域 ESD 拠点」

学校現場・社会教育の現場ではさまざまな主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。そうした現場のESDを支援・推進する組織・団体等を「地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)」として登録しています。四国には25の地域ESD拠点がおり、それぞれの特徴を活かした取り組みが行われています。ぜひご覧ください。

見学についてのご案内(室戸岬体感ガイド「感じる室戸！」コース)

参加費: 無料

定員: 20名(先着)

申込み: 「四国 ESD フォーラム 2025」申込時、【見学参加】のところにチェックをしてください。

注)午後の四国 ESD フォーラム 2025 参加者を対象としているため、見学のみの参加はできません。

内容: ゲーム要素を取り入れながら、ガイドと一緒に五感を使って室戸岬を体感します。

見て、聞いて、触って、嗅いで、室戸を“感じて”みたい方におススメです。

10:00 集合(室戸市役所前) バス移動

10:15 室戸世界ジオパークセンター着 室戸岬体感ガイド「感じる室戸！」コース

※雨天時は室戸世界ジオパークセンターで防災ワークショップ(津波避難シェルター見学)を予定

11:45 バス出発

12:00 室戸市役所着

●当日は動きやすい服装でお越しください。

●飲み物等、各自でご用意ください。

●お昼にお弁当を希望する方(実費)は、申込時「お弁当を申し込む」にチェックしてください。

